



左の写真撮影すると動画がご覧いただけます。
※詳しくはコンテンツページをご覧ください。



町の文具屋さん

【渡金商店】秋田市新屋栗田町26-2 TEL.018-828-3121

鉛筆、消しゴム、ボールペン、絵の具…。
店内に所狭しと並んだ文具の品定めに夢中の子どもたち。
間もなく始まる新学期。
渡金商店こと「ワタキン」に、にぎやかな春がやってきた。



渡邊覚さん。日中は主に学校への配達を担当。店番は奥さんの慶子さんが担当。年2回は自ら東京に文具の仕入れに行く

数え切れない商品数

秋田市新屋表町通りの商店街から一本裏の通り道。日新小学校の通学路沿いに立つ「ワタキン（通称）」は豊富な品ぞろえを誇る文具店。春は新学期の準備でにぎわう。数え切れない商品を前に目を輝かせて「欲しいものいっぱいあって迷う」と悩む子ども。店の奥では中学生が、注文していたトレパンを受け取りに来ていた。

「商品の数があまりに多いから、店に入るなり、目を丸くするお客さんもいるよ。この雑然とした感じがいいでしょ？ 面白い物が宝探しみたいで」。そう話して笑うのは3代目の渡邊覚さん（56歳）。奥さんの慶子さん（53歳）とともに店を切り盛りする。

創業は昭和5（1930）年。祖父の代から80年あまり、子どもたちの姿を見守り続けてきた。

しょうゆから文具へ

店名は、初代である祖父の名前

るときは、ちゃんと注意する。地域のうるさいオヤジなの」と笑う。今は大型店やコンビニ、ネット通販で文具を買う時代。だからこそ、店ではふれあいや地域のつながりを大切に接客する。

地域密着、老舗の意地

「昔は、町の小さな文具店が県内のあちこちにあったけど今は少なくなつて寂しいね」。同業者が姿を消す中、覚さんは生き残りをかけてあえて商品の種類と数を増やした。「在庫は抱えてしまうけど、

数ある中から欲しいものを発掘する楽しさがあるでしょ？ それに学校から注文が入ったらすぐに届けられる。通販より早いよ、うちは。ネットになんか負けない」

長く店を続けているからこそ喜びもある。「何年も来ていなかった子が、すっかり大人になってペーパーカー押しながら店に来てくれてね。ありがたい」と目を細める慶子さん。かつての常連が親になり、親子で訪れる人は少なくない。「こんにちは。いらっしやい」。いつもの声と笑顔で、新屋っ子の憩いの場、思い出の風景を守る。

「渡邊金蔵」に由来。創業時は、しょうゆの醸造元だった。入り口に掲げる商紋、亀甲紋に「金」の字は、しょうゆ屋時代の名残。野球好きだった初代が地元の中学校で野球を指導するうちに文具や教材も扱い始めたと聞いている。父である2代目は、しょうゆ造りと文具・教材販売を両立しながら、書道教

室も開いていた。しょうゆ造りは20年ほど前に辞め、今は文具店のみ。秋田市内の学校から注文を受けて文具の配達にも行く。また、市内の中学校4校で学校購買を営んでいる。覚さんは店に立つとき、コミュニケーションを大事にする。「子どもたちとあれこれ会話して。注意す